

グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト 米国現地研修ジャーナル (2001年3月23日 - 4月5日)

鳴門市立里浦小学校 教諭 香川 智

3月23日 (金)

出発当日、学校は3学期の修了式であった。式が終わり、急いで子どもがいない教室へ向かい(6年生担任だったため、学級の子供達は卒業していた)、Cowee Schoolへ持参するビデオ編集の仕上げに取り掛かった。6年生担任として卒業関係の仕事に追われ、出発準備ができていなかったのだった。さらに、海外旅行が初体験でスーツケースを持っていない自分のことを心配してくれた同僚が、見るに見かねて朝、急にスーツケースを準備してくれていたため、出発前に帰宅し荷物を入れ換えなければならないという状況に追い込まれていた。離任式の後あわてて帰宅し、荷物を詰め替えた。どうにか13:25発のバスには間に合ったが、事前に荷物を空港に送っていなかったために、飛行機に乗るまで大きな荷物に苦しめられた。この日は、新大阪コロナホテルで直前研修があり、そのままホテルで宿泊となった。

3月24日 (土)

午前中の直前研修の後、また大きな荷物を持って関西国際空港へ移動。デトロイトへ向かった。そこから、飛行機を乗り換えてシャーロットへ移動。この時すでに、同僚に借りたスーツケースは、傷だらけになっていた。(自分で買っていたらよかった)さらに車で移動し、途中チャイニーズレストラン風すしバー?で食事。ユーモアたっぷりの演出で調理を行うが、バターと油を大量に使用する料理に唖然。バナナでも肉でも魚でもとにかく大胆に炒める。にぎりのネタはおいしいが、ごはんはとても固かった。時間がかかりそうなので、焼いた物をバックづめしてもらい車へ戻る。マジソンホールに到着した頃には24:00を過ぎていた。みんなで、バックづめの食事を分けた後それぞれの部屋へチェックイン。2:00頃就寝。

3月25日 (日)

8:30頃起床。昼まで部屋でTVを見ながら過ごす。13:40頃部屋をノックされ、あわてて着替え、子ども

美術展の表彰式に参加する。マジソンホールから歩いて15分ほどの距離であった。表彰式には多くの子どもや大人が参加していた。作品は、絵画はもちろん、針金のオブジェ、焼き物、ステンシル、石膏作品等バラエティーに富んでいた。作品の色づかいや構成は実にアメリカ的で、さまざまな技法を自由奔放に使っているという感じであった。ホテルのロビーで、歓迎レセプションに向けての阿波踊りの練習の後、車で45分ほどかけてレセプション会場へ向かった。

18:15 レセプション開始。挨拶の後、子ども達によるタップダンスのアトラクション、私たちの阿波踊りの発表と続いた。会場でMary Lynn MacGillivray先生、William L Dyar校長、Sheila Smith先生、Alan Duncanさんと会う。なかなか話が通じなくて、自分の語学力のなさに大きく不安を感じた。20:00過ぎ車でマジソンホールへ戻った。

今日一日過ごして、ノースカロライナはのんびりしているという印象を受けた。建物は広い敷地の平屋が多い。また、トレーラーハウスもたくさんあった。天気は快晴であったが、朝と夜は少し肌寒い。湿度はかなり低い気がした。23:00時過ぎに就寝。時差ボケのためか、夜中に目が覚めてなかなか眠れない。

3月26日 (月)

朝、6:30起床。7:30より大学のブラウンカフェで朝食。バイキング形式で、自由に食べ物を選ぶことができる。パン、ソーセージ、エッグ等……。ドリンク、果物等もたくさんありかなりお得である。

8:45 マジソンホール出発。9:15頃Fairview School着。最初、ホールにてGrade 3児童による歓迎の歌で出迎えられた。Fairview Schoolの児童数は783名で、4才(Grade 1)~中学2年(Grade 8)までの児童が学んでいる。建物は、アメリカの他の学校とも感じが違い、円形の校舎であった。教室はパイを切ったような形で、棚等で仕切られている。3月29日(木)にカリキュラムフェアという学習発表会を予定しているということで、今回の参観はそれに向けての準備を

している場面が多かった。(今年度のテーマは Craft And Writing) 子どもたちは、WCU の附属校ということもあり、参観されることには慣れているということであった。全員で説明を聞きながら場所を移動し、授業見学を行った。特に印象に残ったことを箇条書きで示す。

- Reading は教科書ではなく文学教材を使用し、完全に個別化の授業を行う。
- Math は操作活動を重視し、後で教科書を使用する。
- Social Studies と Science は統合されている。
- Grade 4 からパワーポイントを使用し、教師はイメージスキャナ、デジカメ等を使いこなせるように常にトレーニングしている。 等

途中、校舎に隣接する Wild Watch Area に移動。ここは、環境教育のための施設であり、広い敷地に、池や小川、花壇、滝等が作られていた。各学年でこのエリアを学習に活用しているそうである。まことにうらやましい限りである。また、Grade 7, 8 の生徒は World wide に展開されている Globe Project に参加し、データを送っているそうである。引き続いて体育館へ。州内の体育教師が研修を受けている場面も参観することができた。

10:40からは Grade 4 の学級に一人で配属されることになった。学習内容は、インターネットに接続されたコンピュータに都市名を入力し、zip code と2つの都市間の距離を調べたり、自分の幼い頃からのアルバムづくりをしたり、白地図に州都を調べ記入したりという思い思いの活動を行っていた。子どもたちはとてもフレンドリーで、明るい笑顔で迎えてくれた。学習内容についての説明をしてくれるのだが、よく内容が分からなくて申し訳なく感じた。

11:40頃メディアセンターへ移動した。メディアセンターは学校の中心部に位置し、図書館とコンピュータールームが融合したような施設である。ここで Fairview School の先生2名と昼食をともにし、この小学校では教員の異動がないことや、子どもは学習中に自分の課題が終わると、次の課題に自由に取り組むような態度が身に付いていること等を聞くことができた。

13:30頃 Smoky Mountain High School 着。1960年に建設され、現在学生929名が通っているそうである。教師72名と他スタッフを合わせて総勢105名の職員組織

である。学生の90%は白人で、また全校生徒の60%が自家用車で通学している。校長先生の案内で、ランチルーム、カウンセリングルーム、家庭科室、美術室……等の見学。続いて職業コースの見学を行った。職業コースにはテクノロジー、ヘルスケア、チャイルズケア、トラベル等……のコースがあるそうだ。実際にチェスボードを制作している場面や、授業で制作した電気自動車も見ることができた。その後、ワープロ・表計算・CADの実習、U. S History、音楽等多くの授業場面を参観することができた。最後に図書室で自己紹介及び先生方の紹介、質疑応答の時間があった。

16:15頃 WCU に戻り、学部長さんとの会に出席した。教師が互いに日米を訪問し合うことのみならず、学生の交流も行っていきたいという希望があることや、3年間の GPSP が終わってからも交流を続けていきたいという話等を聞くことができた。

ブラウンカフェでの夕食後、20:30よりミーティングがあった。このミーティングは、昼間自分が見聞したことや、学んだことを情報交換しながら、サマリーミーティングへ向けての準備を進めていくためのもので、毎晩開くそうである。第一回目は、何を見て、何を考えたかについて、一人ひとり発表していった。Fairview School の教育環境のすばらしさや、Smoky Mountain High School の教育レベルや生徒の学習意欲の高さ等の話題が出た。ミーティングは21:50頃終了。部屋に帰ってジャーナルとデジカメ写真の整理をし、24:00頃就寝。

3月27日(火)

今日は初めて Cowee Elementary School を訪問する日である。8:30にブラウンカフェ前で、Mary Lynn MacGillivray 先生、Alan Duncan さんと会い、Cowee School に向かった。途中、美しい山々や川の景色を楽しみながら約30分かけて到着した。Cowee School は自然豊かな場所に位置する全校児童173名の小規模校である。この地域は宝石(ルビー)採掘で有名な場所だそうで、学校の校章にも宝石があしらわれている。キャッチフレーズ?は "A GEM DANDY PLACE TO LEARN"

世羅先生、小野先生と合流し、8:40から全校児童による歓迎集会(体育館)に参加した。Grade 3 の子ども達からは「大きなたいこ」、Grade 4 は「むすんでひらいて」、Grade 5 は「海は広いな」とそれぞれ日本

語で歌ってくれて、大感激した。今回の訪問に向けて学校全体として準備を進めていたようで、玄関を入ると "Welcome Japanese Visitors" という看板が、また廊下や教室には "Oriental Fans (うちわの工作)" "Yakko Kites (凧の工作)" こいのぼり等の日本風の掲示がされていた。また、地元の新聞社からも取材に来ていた。後で分かったことだが、この地域を日本人が訪れることは本当に珍しいことなのだそうだ。William L Dyar校長先生によると、Cowee Schoolは築75年ぐらい経っていて、教室は現在の規格よりも狭いそうだ。しかし、職員や地域の人はこの校舎に愛着を持っているという話であった。校舎案内の後、Mary Lynn MacGillivray先生の教室 (Grade 4) に入った。壁面いっぱい Mary 先生が日本から持ち帰った徳島県の地図、パンフレット、写真、習字の作品……が飾られていた。日本に関する本も数多く置かれていた。子ども達は Mary 先生と一緒に日本語の挨拶などの練習をしていたようで、みんな「こんにちは、ミスターカガワ。」と大きな声で出迎えてくれた。とにかく教室は Japanese 一色に飾られていた。子ども達は、漢字で書かれた数字 (1 から 9) までを読んで、書く学習を行っていたが、T. Tで学習を進めましょうという話になり、一緒に学習を進めていった。読み、書きの練習の後には、漢字で書かれた計算プリント (2 桁 + 2 桁、3 桁 + 1 桁、2 桁 × 1 桁) へと進んだ。Japanese算数の授業が終わると、次は日本の紙芝居 (十二支について) を英語と日本語で交互に読み、プリントで自分の干支を確認するという学習へと入っていった。Mary 先生は、私が Cowee Schoolでの学校生活に自然にとけ込めるようにいろいろと配慮してくれていたようである。続いて、里浦小学校のVTRを紹介し、質問のコーナーを設けた。子ども達からは、

- 学校に登校してから上靴を何回ぐらいはきかえるのか。制服をいつも着ているのか。
- 体育の学習ではどんなことをしているのか。服は着替えるのか。
- どんな作物をつくっているのか。
- 富士山に登ったことがあるのか。 等

の質問が出され、困ってしまうこともあった。しかし、午前中は小野先生と一緒にあったため、言葉の心配がなく本当に助かった。(次の日からが大変だった)

11:30からは、Lunchの時間で、Lunch Roomに移

動した。食事はクラスごとに一列に並んでLunch Roomに行き、カウンターに取りに行くという方法である。食事中、話をする時間は決まっている。(開始5分間は黙って食べる。Lunch Roomに備え付けられた大きな信号機の合図で) また、話し声が大きくなりすぎると、鈴をならして注意を行う。かなり厳しくしつけをされているという感じであった。しかし、食事が終わるとレジの横におかしの陳列棚が出され、アイスやスナック菓子が自由に買えるということにも驚いた。全員が給食を食べているわけではなくて、数名は家から弁当を持参してきているようであった。

午後は楽しみにしていた裏山での P. A 及び Ropes Course活動であった。Mary先生のクラスを3つのグループに分け、それぞれの班に指導者がつきアスレチックの活動を行う。詳しくは省略するが、グループで協力しながら一つの目標に向かって一致団結して取り組む体験活動である。また、昼食時には Mary 先生、P. A担当の先生、指導者でもある校長先生で綿密にグループピングについての打ち合わせを行っていた。私も、配慮すべき子がいるグループについて一緒に活動したのだが、仲間を大切に、支え合いながら活動する姿に感心させられた。主な種目は Trust Fall (台の上に立ち、後ろ向きで倒れ込む、のこりの子どもがそれを受け止める)、The Wall (2 m ぐらいの壁を、互いに補助し合って乗り越える)、Ski Patrol (日本でいうムカデ競争みたいなもの)、Spider Web, Blind Maze, All Aboard, Ring of Fireなどであった。このアスレチック施設は、地域の人々によって作られ、授業のみならず、地域でも活用されているそうである。校長先生も中心になって指導を行っていたのであるが、実は長年に渡り、ボーイスカウト等野外活動の指導者をされているということであった。

活動終了後、メール交換で頼まれていた箸の使い方についての指導を行った。私は、里浦小学校の校長先生に作成していただいた、英語版の箸の使い方マニュアル、学級の子ども数の箸を持参していた。Mary先生は、ポップコーンやマッシュマロを準備していて、それを箸でつかんで食べる練習をした。最後には全員がつまんで食べることができた。みんな、箸をティッシュで大事そうに包んで持って帰ってくれて、自分もうれしく感じた。

20:30からロイス先生も交えてミーティングがあっ

た。今日は、配属学校を訪問した初日であり、それぞれの学校の様子を発表し合った。ロイス先生からはノースカロライナの教育についての全体的な話を伺うことができた。校長先生のフィロソフィーが学校のトーンを決めているということで、ミーティングの中で感じていた学校間の違いの理由が分かった気がした。

9:40にミーティング終了。後、授業で使う理科の観察カード、アンケート用紙の英訳を手伝ってもらい、12:00過ぎ就寝。

3月28日(水)

Cowee Schoolに8:00過ぎに到着、うまい具合にHP社のプリンタを事務室で発見。昨晚作成した理科の観察カード、アンケート用紙を印刷する。Windowsマシンのよさを改めて感じた。印刷終了後、Mary先生のクラスに行った。始めに国旗に向かい誓約の言葉を読んだ後、子ども達に給食が必要かどうか確認をとっていた。これは毎朝行っていることらしい。今日は午前中だけ、通訳としてErin Barbatoさんが来てくれた。初日の午後、通訳をしていただいたClaire Youngさんと同じく、地元のHighlands Schoolに通う学生さんで、1年間香川県の高校に留学していたということである。実は、今日一日地元の新聞記者にはりつかれることになり、Erinさんには本当にお世話になったと思う。(Erinさんに対しても取材があった)

8:30からの1校時はGrade 5(21名)の(Math)の見学。分数のかけ算の学習であった。授業スタイルは一斉指導の形態で、教師が示した問題を次々と解き、発表する。黒板ではなくてOHPを使用していたのであるが、これは単に黒板が古いのでチョークでかけないからということであった。(どのクラスもそうであった)教室にはアシスタントティーチャーがおり、プリント配布、期間巡視等の担任の手助けをする。さらに授業中援助が必要な場合には自分で判断して特別教室へいく。この時間も3名が移動した。教科書は日本のものと比べものにならないくらい分厚い。教科書は学校のもので、使い終わったら学校へ返すそうである。そのため教科書には書き込みは行わない。教室には難易度にあわせて子ども用に2種類、教師用に2種類のワークブックがあり、課題のすすみ具合に応じて次々と取り組んでいくらしい。学習塾のようなイメージの授業であった。

2校時目は、同じ学級で、頼まれていたCalligraphyの授業を行った。授業に備えて、日本から下敷き10枚と大筆10本、小筆5本、墨1本、硯1つ、文鎮1本、墨汁2本、半紙200枚を持ってきていた。1単位時間が30分しかなく、その時間内に説明、消書、片づけを行わなければならないので、あまり何枚も練習することはできなかったのであるが、担任の先生、アシスタントの先生に手伝ってもらい、全員の子どもが仕上げることができた。初めての習字の授業を無事に終えることができ、ほっとした。その後Grade 4、Grade 3でも習字を教えたのであるが、どのクラスの子ども達も興味を持って一生懸命取り組んでくれた。

10:00からはGrade 3(Math)の見学。日本では6年生で学習していた(現在は違う)対称な図形についての学習であった。日本と同様、本単元では操作活動を重視しており、実際に画用紙を切りながら学習を進めていた。操作活動後はプリント学習、ドリル学習に進んだ。ここでもアシスタントティーチャーは、プリントを配布したり、丸付けをしたりしてメインティーチャーを助けている。メインティーチャーは子どもの理解度をチェックしながら、次の課題を出している。なかなか理解が進まない子は、もう一度教室の後ろで画用紙を使っての操作活動をするように勧めていた。この教室は広く、別にグループになり集まれるような場所があった。学習の準備室も備えられている。

10:50から、図書室でGrade 4(Computer Lab)の見学。Cowee Schoolでは図書室の一角にコンピュータ15台、プリンタ1台、イメージスキャナ1台が設置されていた。機種はマッキントッシュのLCII。少し旧型のマシンである。LANでつながっていたが、訪問時点ではインターネットに接続されていなかった。この時間は9名の子どもが1人に1台のコンピュータを前にして、データベースを用いながらノースカロライナ州について調べ、ワークシートに記入していた。コンピュータの台数の関係からか、クラス内でローテーションを決め、交代で学習をするそうである。先日訪問したFairview Schoolとはあまりに環境が違っており、学校によって設備に差があることを感じた。

昼食のメニューはタコスであった。途中、箸で食べるように勧められ食べていたら、新聞記者に写真をとられ、その写真が大きく(おもしろおかしく?)新聞に載ることになってしまった……。 (ちょっと後悔)

午後はGrade 3のCalligraphyの授業。Grade 3という事で「一・二」という最も簡単な字を教えた。高校生であるErinさんが学校へ帰ってしまい、通訳なしであったが、どうにか理解してもらえたようだった。後でYuka Kawaguchiさん(次の日に通訳してくれた人)に聞いた話によると、高校は出席に厳しいらしく、通訳をするという理由で1日中学校に行かないことは難しいという話であった。(といいながら次の日、Yukaさんと実際にHighlands Schoolに訪問したときには、快く許してくれた)

12:30からGrade 4 (P. E) 見学。体育館には"NO ONE IS LEFT OUT!!"の文字とともに、P. Eや先日のRopes Courseの活動の様子が掲示されていた。ホームページにもプレゼンテーションが紹介されているように、Cowee Schoolがこれらの活動に力を入れていることが伺われ、担当のAnn Wiggan先生、William L Dyar校長先生が工夫を凝らしながら取り組んでいることが分かった。本時は、クラスを3つのグループに分け、いかに見立てた台車にのりながら直径が1m余りあるボールを運んだり、助け合いながら体育館に並べられたマットを渡ったり、ロープを頼りに体育館を移動したり(うまく表現できない……)する活動を行っていた。活動の前後には必ず話し合い、反省の時間をとっており、目的を持って学習活動を行っているということがよく分かった。校舎や体育館は古いが、P. Eに使う用具は充実している。P. Eに限らず、教室から別の場所へ移動するときは必ず一列で歩いて移動し、だれもしゃべらない。休み時間もほとんどないので、廊下を走ったり、廊下でおしゃべりをしたりという場面も全然見られない。厳しすぎると感じるぐらいしつけがしっかりと行われている。少し息がつまりそうな学校生活であるが、通訳のErinさんに聞くと、Elementary Schoolはそんなところだそうだ。(あまり楽しくはないらしい)

13:00からGrade 5 (Computer Math) 見学。子ども12名、教師2名。算数のパズルゲームみたいなものに取り組んでいた。やや単調に感じたのだが、飽きることなく最後までやりとげようとする姿が見られた。

13:45からGrade 4 (Guidance) 見学。通訳がないという状況では、この授業参観は苦しかった。Guidanceとは日本における“道徳?”、“生徒指導?”にあたるものだろうか。フットボールについてのルール説明を行っ

ているような気がしたがよく分からない。とにかく担当の先生による講話の時間であった。しかし、子どもはかなりリラックスしていたようだ。

本日最後の授業は、Grade 4のCalligraphyの授業。「力」という字を教えた。硯は日本から一つしか持ってきていなかったのもので、どの学級でもプラスチックのカップと墨汁を使用した。今日の習字3時間を振り返ってみて、3学級で200枚の半紙、墨汁2本は少なかったようであった。

放課後、子ども達が帰るスクールバスを見送った。ほとんどの子どもがスクールバスを利用している。(一部の子は保護者が迎えに来る)バスの時間には厳格で、授業中でもその時間が来ると子どもは帰ってしまうという話も聞いた。当然、帰りの会はなく、授業が終わるとすぐに帰宅の準備をする。子ども達は整然と並び、2台のスクールバスが来るのを待っている。(バスの運転手さんはボランティアらしい)

16:00にAlan Duncanさんが迎えに来てMary Lynn MacGillivray先生と一緒にマジソンホールへ向かう。車の中でCowee Schoolがあるフランクリンエリアにはビールがないという話を聞き、ショック?を受けた。(ずっと飲んでいない)また、アメリカに入国してから、タバコを吸う場所(売っている店)もほとんど見かけなかった。GPSPに参加して、健康的に過ごすことができている。

時差ボケも解消し、マディソンホールでの生活にも慣れ、夕方WCU内を散策、買い物。夕食は相変わらずブラウンカフェ。

20:10から今日もロイス先生を迎えてのミーティング。自分は、子ども達の休み時間や放課後の時間がほとんどなく、またグループで学習を進めていくという場面もあまりない(子ども同士が自由に遊ぶ時間もない)ということから、子ども同士の関わりが薄いのではないかということ報告した。他の先生からも、Readingの中に理科・社会が取り込まれている。成果をあげるとすぐにほうびを渡す。勤務評定について等……、感想のみならず一步踏み込んだ報告を聞くことができた。まとめとして、表面的に見えているものの背後にあるものを探ることが必要であるという話になった。

ミーティング終了後、ネイチャーゲームに使うカードの翻訳を手伝ってもらう。部屋に帰りカードの仕上げ、デジカメ写真の整理。さすがに200万画素で撮影し

ているとファイルサイズが大きくなる。このままでは、1.5GしかないNEC Mobio（自分がアメリカに持っていったコンピュータ）のハードディスクの空き容量が足りなくなってしまう。まもなくワードとパワーポイントを残し、他のソフトウェアを消去しなければならない状況に追い込まれそうだ。24:30就寝。と思ったら、部屋の鍵が見あたらずになり大慌て。部屋の中からロビーまで探しまくってやっと机の引き出しの中から見つけた。結局1:00過ぎ就寝。

3月29日（木）

7:30 Alan Duncanさんが迎えに来てCowee Schoolへ。今日は一日校長先生の運転、案内により、Macon County内の学校を訪問するという。今日の通訳は日本人高校生のYuka Kawaguchiさん。彼女は三重県出身で、後で訪問するHighlands Schoolに1年間の予定で留学しているという。始めにCowee Schoolよりさらに山間部にあるIotla Schoolに到着した。Iotla Schoolは全校児童160名、K2～Grade2までの子ども達が通う小規模校である。最初はGrade2（Science）の授業を参観した。（児童数5名）インターネットを使ってアメリカ各地の天気・気温等を調べている。この学校はコンピュータ設備が充実しているようであった。さすがにGrade2ということで、コンピュータ操作や画面の説明についての支援を教師がかなり行っていた。続いて、Grade1（児童数20名）の理科の授業（日本では“種の発芽”）を参観した。まず、発芽させるために必要なものを発表させ、次に黒板に種の拡大図を描き、各部の名称についての指導。（Skin, Embryo, Stem, Leaves, Root等）さらに、実際に種を配り観察させていた。子ども自ら発見するというよりも、知識を教えるから実物で確かめていくという展開であった。本単元も先ほどの天気の単元も日本においては第5学年で指導している内容である。その点で、カリキュラムの違いを目の当たりにすることになった。

9:15頃 Iotla School を出発し、さらに山を登りHighlands Schoolを目指す。途中で無人のガソリン給油所に立ち寄り自分で燃料補給（いいのだろうか?）。駐車場には白色のスクールバスが並んでいた。このバスは、旅行や宿泊研修の時に学校が使用するバスということであった。さらに霧に包まれた山道を登る。周りにはかなり上流に来ていると思われる川や美しい滝

の景色が見られる。本当に標高が高い場所に向かっているようだ。1時間余りのドライブの後やっとHighlands Schoolが見えた。（一番高いところにあるHigh Schoolらしいが、何を基準として一番かは分からなかった。）到着したのは10:30を過ぎていた。自分が通う学校に到着したということで通訳のYuka Kawaguchiさんが進んで構内を案内してくれた。彼女は今は英語が堪能であるが1年前は、何も話すことができず、つらい思いをしたということであった。自分もこのままここで過ごしたら少しは話ができるようになるのだろうかと考えてしまった。Highlands Schoolは全校児童410名でHigh Schoolだけで比べるとは最も小規模な学校らしい。子どもはKindergartenからGrade12までが在籍している。すべての教室を案内してもらおうが、どの学級においても歓迎された。（本当に珍しいお客さんが来たという感じ）日本のことについて話をしてほしいという学級もあり、世界地図で日本の位置を教えたりしたのだが、日本の位置も知らない子どもたちがほとんどであった。見学の後Lunch Roomで昼食をとり、次はMacon Middle Schoolに向かった。帰り際、Highlands Schoolの先生の許可が出てYuka Kawaguchiさんが一日通訳として同行してくれるようになった。

Macon Middle SchoolはCoweeの卒業生が通う学校らしく、William L Dyar校長と親しく話をする子どもの姿もあった。大きく新しい学校で、一階の少し下がった部分はオープンの図書スペースになっている。また、中二階（というか空中に浮いている感じ）に職員室があり、そこから一階をすべて見渡すことができるような作りになっている。校長先生が不在だったため、正式に授業見学を行うことはできなかったが、William L Dyar校長の人脈で、いくつかの授業を参観することができた。特に、地域で中心となって理科教育を行っている先生の授業を見る機会を得られたことはよかった。内容は十分に理解できなかったが、自分の家庭や身近な地域から採集した土壌をさまざまな方法で分析しているようであった。この学校は、新しいということもあり、設備も充実していた。（コンピュータもかなりの数が導入されている）また、大がかりな気象観測の設備があり（これを見せたかったようだ）Globe Projectにも参加しているということである。

次に、South Macon Schoolという現在建設中の学校を見学した。Macon Countryいくつかの学校が統合

して本校に通うことになるらしい。工事用のヘルメットを被り、校舎内を見学。バリアフリーの学校を目指しているということで、体育館の舞台に上がるためのエレベーターまで設置されている。学校の中心にはFairview Schoolと同様、メディアセンターが計画されている。

自分としては、今日も一日Cowee Schoolで過ごしたかった気もしたのであるが、Macon County内の学校を訪問することになった理由として、自分が理科教育について学びたいとメールで連絡をしていたからだと思う。今日のことだけではなく、今回の訪問では出来るだけ、訪問客（私）の要求に応えたいというあたたかい心、気持ちを幾度となく感じる事ができた。今思い起こせば、Iotla Schoolの黒板に書かれていた"Welcome to our school Mr. KGAGAWA"の文字や理科の学習、Maconでの授業参観……。すべて、私のことを考えて事前に準備し、理科が得意な先生や学習環境の整っている学校を捜したり、計画したりしてくれていたものだという事を感じ、本当に感謝の気持ちでいっぱいである。その気持ちは今なおずっと変わらず私の心の中にある。

Coweeに帰ってから明日のScienceの授業について打ち合わせを行った。明日は、朝から通訳がないということで、私が準備していた観察カード（植物観察の授業）を使うことは、残念ながら難しいだろうということになり、昨晚翻訳したNature Gameを行うことになった。

マジソンホールに帰り、すぐに18:00からFairview Schoolで行われるカリキュラムフェアに参加した。これは、保護者参観も兼ねた学習発表会的なものであるが、私たちが行うようなものとは規模が違い、大がかりなものである。保護者もかなり協力しているようである。まず、Lunch Roomで食事をごちそうになってから、体育館でのオープニングセレモニーに参加した。その後、各教室を自由に参観した。今年のテーマは"Investigating the Craft of Writing"ということで、学年ごとのテーマに基づいた、掲示、作品、発表等を行っていた。これだけのフェアを開催するにあたってはどれだけの準備期間が必要なのだろうか？と心配するくらい、どの学年の内容もすばらしかった。夕方から開催するというのも日本では考えにくいことだが、保護者が参加しやすいという点からも、この時

間帯に行くことがふさわしいのかも知れない。19:30頃Fairview Schoolを離れ、マジソンホールへ帰った。20:30よりミーティング。実はサマリーカンファレンスでの発表までの日がほとんどないことに気づき（ホームステイが間にあるため）、気持ちがあせりつつまとめに入る。共通性（フェアな教育）と多様性（方法として、内容として）及び、その背景にある国民性、人間観、社会の仕組み……。で整理しようという方向性になってはきたが、なかなか先へ進まない。明日、明後日はホームステイということもあり、まとめるのは4月1日の午後からしかない。サマリーは2日の9:00から……。不安だらけだが、少しでもホームステイの間に各自考えておくということで（これは無理だった）ミーティングを終え、世羅先生の部屋でアメリカに入国して初めてのビールで乾杯した。部屋に帰ってから久しぶりのビールを味わい、24:30頃就寝。

3月30日（金）

今日は、Cowee Schoolで過ごす最終日であるとともに、マジソンホールを離れる日でもある。朝6:00に起床し、7:15チェックアウト。迎えに来たAlanさんより自分の記事が載ったNews Paperを受け取り、しばらくの間笑ってしまった。見出しには"County School gets its own 'occidental tourist'"、例のタコス箸で食べるひょうきんな？写真の下には、"Japanese exchange teacher Satoshi Kagawa enjoys his taco salad at Cowee Elementary School with a pair of chopsticks."の文字が。2面にはインタビューの他に、習字の授業の様子も記事にされていた。……"CHI-KA-RA!" he shouted slowly, with a smile on his face……また、記事中に何度か出てくる"Small Man"という言葉（確かに新聞記者の背が高かった）、やたらchopstickという単語が出てきていること……。詳しくは分からなかったが、楽しく書かれているようだった……。

8:00 Cowee School着。すぐに教職員が休憩する部屋に案内された。そこで、Cowee Schoolの先生方が待っており、メッセージが書かれた大きな手作りケーキが準備されていた。ケーキに入刀した瞬間、大きな拍手と先生方からのプレゼントをいただいた。全く予想もしていなかったことで、感動して涙が出そうになった。先生方とケーキの会食を楽しんだ後、来年度里浦小学校を訪問するSheila Smith先生のTitle I（日本で

の言葉の教室) Readingの授業を参観した。小さな教室で数名の子どもが文学の学習を行っていた。人数は少ないが、この教室にもアシスタントティーチャーがおり、個別指導を行っている。9:15からはGrade 4 (Math) 見学。水曜日に参観したMathと同様、操作活動を多く取り入れた対称な図形についての学習であった。線対称な図形がうまくかけない子どもには対称の軸に立てることによって簡単にかくことができるような教具(偏光板のようなもの?)を準備し、理解を助けるよう配慮していた。10:00からはCowee Schoolで初めてScienceの授業を参観することができた。(Grade 3) 多分こちらの要望を聞いてくれたと思うのだが、植物単元の学習であった。始めに種の発芽から子葉、葉が出るまでの過程及び各部の名称についてワークシートに記入しながら全体学習。その後アシスタントティーチャーが2人に1つずつ植木鉢とルーペを配布し、観察に入った。あちこちから感動の声があがり、興味を持って意欲的に観察する姿が見られていたが、子どもたちがワークシートに記録しているのは、なぜか目の前にある実物の観察記録ではなく、前半に学習した植物の一生であった。普段観察をあまり行っていないことが伺われたのであるが、授業を見せてくれたこと自体がうれしかった。私も期間巡視を行い、おいとか手触りとかの観察の視点を与えると、思い思いに自分の感じたことを教えてくれた。日本もアメリカも子どもの感じ方は同じであると改めて感じた。実物を目前にすると目の輝きが増すことも同じであった。

10:50からはGrade 4 (Language) の見学。ワークシートに縦書きで名前を書き(例えば"BILLY"のように)、横に自分の紹介や、いいところを書いていく(BはBeautiful、IはIntelligentのように…)。ゲーム的な内容で楽しく学習していた。私も、言葉が思いつかない子への支援を行った。この時間ほど電子辞書が重宝したことはなかった。(なかったら絶対アドバイスできていない)

11:30から裏山に移動しGrade 4の子ども達に対して、Nature Gameを行った。カードや説明の英訳は昨晚行っていたので心配していなかったが、ケガをさせないよということに気を遣った。先日の夜のミーティングで、ケガをした場合、親から治療を受けさせてもかまわないという手紙がないと病院は治療を行わないとか、学校で何かあった場合の責任の重さ等につ

いての話を聞いていたからである。始めに宝探しカードを使い、身近なところでトゲトゲのものとか、食べあととかを探しながら導入を図り、次にフィールドビンゴ(キッズ)カードと、英訳したカード(Mary先生が色画用紙に印刷してくれていた)を配布した。ダックコールの合図で、子ども達は思い思いに山を散策し、ほとんどの子どもがビンゴをたくさん作ることができた。先生方も楽しんでくれたようで、本当によかったと思う。時間が30分しかなく、他のアクティビティーを行うことができなかったのが少し残念であった。

昼食後はGrade 3の子ども達にNature Gameを行った。先ほどの時間と同様、子ども達は楽しみながら活動に参加してくれた。木のうしろの奥に隠れているキノコを発見したり、落ち葉をかき分けて生き物を発見したり、活動を通して、自然をみる目や自然を豊かに感じる心の育ち、自然体験の豊かさが感じられる場面が幾度となくあった。このネイチャーゲームはアメリカのナチュラリスト、Joseph B. Cornell氏が体系的に発表したものであるが、Cowee Schoolの先生方や子ども達にとっては初めての体験であったようである。裏山に移動するときや校舎に帰るときも一列で、だれも話はしない。前にも書いたと思うが、しつけが本当に行き届いている。

13:00からはTitle I (Math) を見学。この時間も少人数で個に応じた学習がしっかりと行われていた。

13:40からはGrade 4 (Art) の見学。少し離れた教室であるが、違う学級に移動するときは必ず、子どもが親切に案内してくれる。美術は専門の先生で、毎日学校に来ている訳ではなくて勤務はPart-Timeである。Coweeでは他にSpeech & Hearing、Musicの先生がPart-Time、Guidanceの先生がHalf-Timeの勤務である。この時間は肖像画の模写を自分なりにアレンジするというような授業を行っていた。仕上がった子ども達に折り紙をねだられ、簡単な折り紙を教えた。他の先生方に聞いていた通り、アメリカの子どもは折り紙の経験が少ないことや、身近にある紙の質が堅い(厚い?)ので、鶴とかではなく簡単なものの方がうけが良いようである。

昼から、ノースカロライナで初めて経験する雨が降ってきた。次の時間は、Grade 5ということで、少し難しいフィールドビンゴ(木)のカードを使用する予定だったのだが、さすがに雨の中では野外活動はできな

いということであった。そこで、魚の形をした醤油入れの口にボルトナットをつけた浮沈子（もしものときの為に日本から持参していた）と、色画用紙を使った種のグライダーを制作することにした。子どもの人数分ペットボトルを準備することができなかったため、また家でやってみてくださいということにした。種のグライダーは、アメリカ製のクリップが少し重すぎて、なかなかうまく飛ばず苦勞した。余った時間は、Artの時間にうけがよかった折り紙を指導し、どうにか任せられた時間を終えることができた。

帰り際に、何人かの子ども達と記念撮影。本当に名残り惜しく、スクールバスを見送った後、学校を回ってCowee Schoolの写真をたくさん撮影した。また、記入済みのアンケート用紙を受け取った。いつの間にかほとんどの学級でアンケートを行ってくれていた。ありがたいの気持ちでいっぱいである。放課後、ゆっくりと過ごしたかったのだが、すぐにGem Mineに行く予定ということで急いで荷物を整理し、お世話になった先生方とお別れした。

Cowee Schoolを出発し、山道を走る。最後は舗装されていない道を走る。しかし、Gem Mineとは一体どんな場所なんだろう。ずっと山の中に入って行く。最初はGem Mineという言葉の意味が分かっていなかったが、話を聞いているとどうも宝石の鉱山で、自分でルビーを採ることができる場所のようであった。16:00頃Rainbow Mineに到着。土砂を採取する場所か工事現場のような所に木造の小さな小屋があった。どう見ても、ここが観光地であるとは思えない。雨のせいで、すでに靴は泥だらけ……。定休日だったが、Mary先生の交渉で入ることができた。スコップとバケツを手渡され、土砂の山からバケツ2杯分の赤土を採取しろと言う。次にルビーの探し方についての説明を聞いた。目の細かいざるに少量ずつ土をいれ、流水で洗う。ある程度洗ったら、大きめの石はどんどん捨てていく（大きいものは宝石ではないらしい）。赤みを帯びた石が見つかったら、他の石とこすり合わせて固さを確かめる。見本を見せてもらうとルビーは他の石より明らかに固く、重いので間違えることはなさそうである。やり方が分かったので、後はMary先生とひたすら土の選別作業。教えてもらったように、ざるに土を入れ力を入れて円を描くように洗って行く。水は冷たく素手で作業を行うので、指先の感覚がなくなってくる。指紋もな

くなりそうである。しかし、やってみるとこれが結構はまる。紛らわしい石を見つけてはMary先生と一喜一憂する。一攫千金を目指し、1時間余り黙々と作業を行ったが、結局私は見つけることができなかった。（石と間違えて捨てたかも……）Mary先生は2つ見つけ出すことができた。帰り際、かわいそうに思われたのかRainbow Mineの人がいくつかルビーをプレゼントしてくれた。宝石採掘？作業で服も靴もどろどろになっていたが、思い出に残る場所の一つとなった。Gem Mineを出発しホームステイ先のMary先生の家へ向かう。服を着替え、Mary先生、Alanさんとともにフランクリンエリアのバーベキュー店へ。ここで、Ann Wignn先生、Ann先生のお姉さんと合流して夕食。（バーベキュー店というのにビールはない。フランクリンエリアには本当にビールがないようだ）

20:00過ぎSheila Smith先生と小野先生がMary先生宅へやってくる。みんながそろったところで、Japanese Tea Partyを開く。自分は茶道の心得は全くなかったのだが、訪問前に裏千家のお点前について教えてもらっていた。お茶碗、茶筌、茶杓、こし器？、抹茶、お菓子（和三盆糖）はMary先生へのプレゼントも兼ね日本から持参。みなさんの口に合ったかどうかは分からないが、喜んでもらえたと思う。この日最高にうれしかったことは、Mary先生とAlanさんからプレゼントをいただいたことだ。丁寧に包装されたラッピングを開けると、なんとアメリカ合衆国すべての州の石の標本であった。さらに今日買ってきたというVan HalenのCDも……。訪問前のメール交換で、自分が自然に興味を持っていること。6年生の理科で“大地のつくり”を学習していて、学校内の土や石を採集したり、鳴門市のボーリング調査資料を収集していること等を考えてくれていたからであった。昼間Gem Mineに連れて行ってくれたことも、私が興味を持っていることを知っていたからであろう。また、Coweeに向かう車中で、自分はアメリカのグループではVan Halenが一番気に入っていると話をしたことも覚えてくれていたようだ。ここまで自分のことを考えてくれているということに、とにかく感激いっぱい。（冷蔵庫にはフランクリンには売っていないビールが……）22:20 Sheila Smith先生、小野先生が帰宅。23:00就寝。

3月31日(土)

7:30起床。続いて入浴、朝食。今日は一日観光の日。自然が大好きな自分のためにGreat Smoky Mountain National Parkに連れて行ってくれるらしい。

9:30出発。10:00過ぎ、Mary先生が大好きであるという教会へ到着。森の中にある教室半分ぐらいの小さな木造の建物である。そこからCherokeeのMountain Farm Museum & Millへ。ここからさらに山を上がっていく。道は広く、周りの山や川の景色もすばらしい。標高はかなり高い。Great Smoky Mountain National Parkは有名な観光地であるようで、他州ナンバーの車も目立つ。次にClingmans Domeに寄る。ここにはLookout Towerがあるのだが、天候が思わしくなく、遠くの景色が見られず少し残念。さらに北へ向かいTennessee州の町Gatlinburgに到着。町は観光客?であふれていた。Gatlinburgでハンバーガーの昼食。(本場のハンバーガーはおいしい!)次に扮装写真館に入りMary先生、Alanさんと西部劇の扮装に挑戦。この写真は一生の宝物になりそうである。さらに車を西に走らせ、Cades Coveに向かう。Great Smoky Mountain National Parkには貴重な動植物もたくさん存在するということで、Visitor CenterにあるMuseumでは多くの珍しい動植物を見ることができた。Museum Shopでもたくさんお金を使ってしまった。(Jordan's Salamanderの置物やバッジ、Great Smoky Mountain National Parkのスクリーンセイパーとか……)

Cades Coveは山の中にある高原みたいな場所で、車で移動しながら鹿などの動物を見ることができる。車から降りて教会や開拓者が住んでいた建物を見学することもできる。Great Smoky MountainではBlack Bearsが有名で、実際にMary先生の友達も出会ったそうである。車中から探すが、今日は残念ながら出会えなかった。日暮れが近づいてきたのでCades Coveを出発し、Cherokee Casino(カジノ)へ。夜になっているというのにとにかく人が多いのに驚く。駐車場から建物まではバスで移動、客の平均年齢は高く、お年寄り夫婦もたくさんいる。(お年寄りの方が多い。)地域の一番の娯楽施設のようである。入り口でいきなり、係員に制止された。どうも、私の年齢が21歳より下に見えるらしく30才越えてますと言ってもなかなか信用してくれない。仕方なくパスポートを見せ、やっと入ることができたが、係員は私の年齢を知りとても驚い

ていた。他の先生方の話を聞いても、どうもこちらでは日本人は若く見られるらしい。(身長も関係しているのか?)しばらくゲームを楽しみ、Casino内のバイキングで食事をしたあと帰宅。時間は22:20になっていた。帰ってからMary先生とAlanさんは家中の時計の針を一時間進めていた。明日は4月1日、夏時間(サマータイム)に変わるらしい。ということは到着した時刻は23:20となる。何だか不思議な感覚である。1:30頃就寝。

4月1日(日)

朝8:00起床。明日のサマリーミーティングに備えて、発表の柱を考える。朝食後、Mary先生、Alanさん、私の3人で犬を散歩につれていく。Mary先生宅は、町から少し山を上がったところにあるロッジ風の美しい建物である。日本の別荘地(軽井沢?)という感じだ。隣接する家でも50mは離れているであろう。すばらしい環境である。自然豊かな場所で、いろいろな動物に出会うそうである。朝食中にはノースカロライナの鳥であるCardinalの訪問もあった。

11:20 Mary先生宅を出発。マジソンホールへ向かう。昼食の時間がないので、スーパーに寄り、クッキーや缶詰がセットになったLunch Boxを買う。日本ではこのようなものは見たことがないが、こちらでは結構メジャーなものらしい。様々な種類のLunch Boxが売られていた。マジソンホールでお世話になったMary先生、Alanさんとお別れである。我慢してもどうしても涙が出てしまう。メール交換を約束し、13:00マジソンホール出発。ホームステイに行っていた鳴門市の先生方と合流しながら、ラレーへ向かう。車の中でサマリーに向けての打ち合わせを行うが、なかなか進まない。18:00ラレー着。Brown Stone Hotelにチェックイン。大阪、広島地区の先生方と合流。全員で車に分乗し、夕食の会場へ。米日財団のDavid P. Janesさんと相席になり、会話がはずむ。(すごく日本語(大阪弁)の堪能な方だった。)メニューを見ると、Sashimiがあることに気づき、迷わず注文する。しかし、レアですか? ミディアムですか? と聞かれ、レアと答えたものの、少しいやな予感がした。予感的中し、刺身とはかけ離れた食べ物が出てきた。アメリカの食事は、とにかく量が多いこと(注文時に注意した方がよい)、味が濃いこと(強烈に甘いものが多い。お菓子など…)、

色鮮やかなこと（特にジュースの色にはびっくり）という印象が強い。今回のSashimiも不思議な味付けで、さすがに全部食べることができなかった。この店では生ビールを醸造しており、おいしい黒ビールを3杯も注文してしまった。22:30にホテルに戻り、頭を明日のサマリーに切り換える。鳴門市の先生方全員私の部屋に集合し、発表に向けての準備を行う。模造紙の資料、パワーポイントのプレゼンテーション、発表原稿（日本語、英語）すべて完成したのは朝の7:00であった。ホームステイの翌日がサマリーであるという日程はすこしきつかったと思う。しかし、小野先生、世羅先生、広島からただ一人参加の川上先生、鳴門市の先生方、一致団結し発表を仕上げたことがノースカロライナ滞在中の一番の思い出になった。プレゼンテーションから発表内容を抜粋し、次に示す。

発表テーマ：“In Pursuit of Fairness in a Competitive Society”

1 私たちがとらえたアメリカの人々が持つ考え（キーワードは：“Fair”の精神）

競争の原理：すべての人々が同じスタートラインに立っている
すべての人々がルールを守る

↓

ハンディキャップを持つ人々に対して様々な配慮・支援を行う社会の仕組みがある

2 求められている子ども像

小学校 ・基礎学力の充実

・アメリカ国民としての道徳性

中学校 ・精神的、身体的に健康であり、自分で考え論理的に解決できる

・権利を尊重しつつ、協調性をもってコミュニケーションをもつことができる

高等学校 ・創造力の育成（基盤となる学力の育成）

・自立する力を持つ子ども

子どもの姿の現状： ・学習にまじめに取り組む

・教師の指示によく従う

・校内のルール（規範）を守る

・自分の目標を持っているなど

3 私たちが見たノースカロライナの教育

(1) 基礎基本の重視（幼児からの基盤づくり）

・Reading・Writing・Math

→ ・学習環境の整備

・評価

・End of Grade North Carolina など

(2) 個性を重視する教育

個に応じた学習環境：

・個人別カリキュラム（個別の課題）

・自由な選択コース

・教育機器の充実（コンピュータ等）

・個に応じた支援（能力別）

・総合的な学習（内容や方法の多様性）など

4 私たちが学んだこと

(1) 個に応じた教育の展開

①カリキュラム・学習方法

②レベルに応じたクラス分け

③全校一貫した取り組み

④地域社会や保護者の協力

↓

次世代を担うアメリカの子どもの育成という考え

(2) 教師の地位確立

①研修制度

②専任教員の配置

(3) 教育環境の充実

①教育機器

②自然環境

③学習環境

5 私たちの疑問

① グループ学習・話し合い活動

② 共に学び、高め合う学級づくり

③ 特別活動

④ 子どもどうしの関わり

⑤ 休み時間

⑥ 研究授業

4月2日（月）

7:00に解散後、急いで入浴。7:30からホテル2Fで昼食。午前中は広島地区、大阪地区、徳島地区の順で発表。他の地域もパワーポイントや模造紙で発表内容を分かりやすく伝える工夫を行っていた。個人的には心配していたパワーポイントも無事動き、発表を終えとりあえず一安心。キーワードを模造紙に英訳したが、パワーポイントの英訳が間に合わず、その点が残念だった。12:30～13:30ホテル内で全員で会食。協

力校協定書にサインをし合うというセレモニーもあった。

午後はアメリカからの発表。Darryl Rogers先生からの報告ビデオ番組作成の報告では、番組のセンスや編集技術のレベルの高さに驚いた。

サマリーコンファレンス終了後、州議会の見学。日本でも議会を見学したことがなく、議員席に座り記念撮影（情けない）。議会開会後しばらく見学、議員の方々にみんなで挨拶を行い見学終了。ホテルに帰ってから一人で周辺を散策。ラレーは州都であり、建物は多いが、ホテルの窓から見ると緑の木立もたくさんある。ホテル近くの雑木林にはリスもたくさん生息していた。近づいて写真を撮ろうとすると逃げてしまう。（当たり前か……）最も気がかりだったサマリーが終わり、のんびりした時間を過ごした。

夕食は、他地区の先生方とホテルから徒歩10分ほどの場所にあるピザ屋さんへ。気分が軽くなっていたこともあり、調子にのってビールをピッチャーで頼んでしまう。相変わらずの注文のしすぎで食べきれず、ピザは部屋に持ち帰ることになった。昨日分のジャーナルにも書いているが、くれぐれも注文しすぎに注意が必要である。（1人前が日本人の感覚では2倍ぐらいの量?）

4月3日（火）

朝、鳴門地区の先生方とホテル近くに朝食を食べに行く。多くの種類のパンやトッピングがあり、自分の好みのものを注文できる。語学が乏しい自分にとってはこのような店は苦しい。一番プレーンに近いパンと思いSaltを注文すると、やはりSaltまみれだった。9:30に Exploris Middle School に到着。本校は私立で、Exploris Musiumと隣接している学校である。日本流に言えば博物館附属小学校? というところだろうか。全校児童168名で生徒の内訳はGrade 6（56名）、Grade 7（56名）、Grade 8（56名）。それぞれの学年に4人の先生が所属する。特徴的なことはテーマ学習(Integrated curriculum)で、Science, Math, Language, Arts, Social studies, Technology に分かれている。3学年では外国語としてスペイン語またはフランス語を学習する。ニューヨークにおいてはスペイン語が第2外国語として最もポピュラーであるということだ。校内と博物館をこの学校の生徒が案内してくれた。校内には、

テーマ学習のまとめが、多数掲示されている。内容のレベルも非常に高い。Art の作品にも創造性の豊かさが感じられる。Exploris Middle Schoolは入学の選考が難しいのではと思ったが、願書による申し込みのみだそうだ。教室の後ろには個人ポートフォリオの分厚いファイルが並んでいる。P. Aはボーリングゲームのようなことを行っていたが、体育館と呼べるような広さの場所ではなかった。運動場も見あたらなかったので、運動能力を高めることはできるのかと少し疑問を持った。Exploris Musiumは環境、歴史等広い内容にわたって、展示されており、Exploris Middle Schoolは学習を行う環境として理想的であると感じた。

昼食は、他地区の先生方と一緒に近くのイタリアンレストランへ。アメリカに来てよく思うことは、どこに行っても公園とか緑がたくさんあるということである。また、町並みもすごく“おしゃれ?”。どこでポートレート撮影しても結構絵になる。

午後は、個人的に楽しみにしていた科学博物館へ。まず、空中に浮かぶプテラノドン（恐竜）の模型が目をついた。ブラキオサウルスやの実物大の模型、アロサウルスの骨格模型も迫力がある。遠足と思われる子ども達も数多い。主に植物・動物の展示物を中心に見る。自分が一番興味深かったのが、Soil Systems In North Carolinaというノースカロライナの地質についての展示であった。単語が難しく、意味が分からない部分が多かったので、とにかくデジカメでたくさん写真を撮影した。（デジカメは便利だ!）Cowee School共同学習に生かせたら? と考えている。見学後1 FのMusium Shopへ。欲しいものがたくさんあって迷ってしまう。トルネード実験セットとか、Cardinal型のダックコールとか、岩石とか……今回のアメリカ訪問の中で一番お金を使ってしまった。

博物館を出て次は州教育委員会へ向かう。小学校理科教育関係の資料を中心に探す。小分けでは売ってこないという話だったので、理科部会への先生方へのおみやげ? として仕方なくElementary Science Safety Guide 30部入りのもので買うことにした。後で世羅先生よりKindergartenからGrade 5までのすべてScience Standard Course Of Studyを頂くことができ、後の個人レポート作成にとっても役だった。（ありがとうございました）

夕方は、全員で車に分乗し、大きなショッピングモー

ルへ向かう。一番始めに、モール街とは離れたところにある、Book Storeに入った。実は、アメリカが中心にある世界地図を購入するためだった。(5年生国語“地図が見せる世界”という単元で使えればと考えて)他にも、理科関係の本を何冊か購入。ショッピングモールに戻り、残り少ない財布の中を心配しながらおみやげを探す。

夕食はモール街の一角にある日本料理の店に行った。日本のビールも置いてあり、なつかしさのあまり頼んでしまったが、値段はアメリカのものよりかなり高い。アメリカ最後の夜を楽しく過ごすことができた。ホテルに帰ってから Donald Spence 先生の部屋に招かれ、鳴門地区の先生全員で挨拶及び歓談。おみやげなどでふくれあがった荷物の整理を済ませ、寝ることができたときには2時を過ぎていた。

4月4日(水)

6:20起床。あわててスーツケースをロビーに運ぶが、すでに空港行きの荷物は出発した後だった。遅れてしまって他の先生方に迷惑をかけてしまった。さらに、チェックアウトのときに、自分が全然見ていないVTRの料金を請求されてしまった。一度もTVはつけていないのに請求されることが納得できず、米川先生と一緒に交渉するが、なぜか記録が残っているため、交渉が進まない。記録されている時間は、研修で外出している時間もあったのだが……。しかし、出発の時間が迫っており、請求金額も減額してくれたので、サインをすることにした。米川先生からは、どんなことが起こるかも分からないので、朝早く起きた方がいいと教えていただいた。本当に反省いっぱい朝だった。(TVはタンスの中に収納されていたので、いつの間にかリモコンのスイッチを押していたのかも……?)

ラレー空港のファーストフード店でホットドッグの朝食。カードで支払う。小銭で払うよりカードの方が喜ばれる場合が多い気がする。

ラレー空港から飛行機でデトロイトに到着。免税店に寄るが、財布の中の現金はほとんどなくなっており

何も買わなかった。鳴門地区の先生方とファーストフード風そば屋で昼食。関西国際空港行きノースウェスト航空に搭乗。自分にとって初めての海外旅行で、参加することが憂鬱なこともあったのだが、いざ日本が近づいてくると、もう一度アメリカ(ノースカロライナ)に戻りたくなった。

4月5日(木)

約14時間の飛行の末、関西国際空港に到着したのは午後4時前であった。スーツケースを受け取り、空港内を散策。午後6時過ぎ、徳島行きのバスに乗る。バスの中から、里浦小学校の先生方へ連絡。自分の担任学年や校務分掌を知り、一気に現実に戻る。明日は学年始め職員会……。学年末にあわてて片付けた荷物の整理が頭をよぎり、さらに憂鬱な気持ちになる。

3学期の修了式の日に出発し、約2週間のアメリカ滞在。自分の五感を通して入ってくるものすべてが新鮮で、学ぶことの連続だった。ほんの短い期間の滞在であったが、今まで小学校の教員としてやってきたこと、考えてきたこと……いろいろな経験をもう一度見直すきっかけとなったと思う。

しかし、一番自分にとってよかったことは、距離は離れていても、また言葉はうまく通じなくても、相手のことを思いやる心は通い合うということを実感できたことである。今回のプロジェクトで出会った数多くの人々から、かかえきれないほどの“心”をいただくことができた。今まで、人とのふれあいのすばらしさを子どもに伝えるよう心がけてきたが、今回ほど自ら感じたことはない。人生を豊かにしながら自分を成長させていく、人と人とのつながりは日本国内のみならず、世界中に無限に広がっている。本当にGPS Pに参加できた幸せを感じている。後はこの経験を生かし、伝えていくことが必要であると思う。

最後に一言……。

人と人との出会いほどすばらしいものはない。